

令和 6 年度 大学活性化経費 事業成果報告書

事業区分 (1)教育の質的転換に関する事業 (5)地域への文化発信の拠点となる取り組み

申請組織 中学・高校・大学生ディベート大会 椋山女学園大学杯実施班

申請組織長 役職名 学部長 氏名 山口雅史

統括責任者 役職名 教授 氏名 吉田あけみ

課題名 ディベート教育の活性化—中学・高校・大学生のディベート大会 椋山女学園大学杯

	役割	氏名	所属・役職名	役割分担
事業組織	統括責任	吉田あけみ	人間関係学部教授	共催団体との折衝、事業 PR、大会当日の運営
	広報	藤原直子	人間関係学部教授	学内大会の学生への周知
	広報	小榮住まゆ子	人間関係学部准教授	学内大会の学生への周知
	広報	谷口功	情報社会学部教授	学内大会の学生への周知
	広報	東珠実	現代マネジメント学部教授	学内大会の学生への周知
	広報	影山穂波	情報社会学部教授	学内大会の学生への周知

1. 事業開始の背景・経緯や目的等 (200 字～300 字程度で記述)

以前金城学院大学で実施していた金城学院大学杯を椋山女学園大学杯として引きついだ。中学生・高校生・大学生のディベート大会を、全国教室ディベート連盟東海支部と共催して、実施し、その準備の論題講習会やディベート指導者養成講座を、本学で行うようになった。

アクティブ・ラーニングとして注目されている、ディベート文化を中学・高校・大学生をはじめとして、教員並びに広く市民にも普及させていく。椋山女学園大学杯の贈呈により、東海地区の中学・高校生への PR につなげる。指導者養成講座の開催により、教員に向けての PR にもつなげる。

椋山女学園大学の人間関係学部の学生をはじめとして、全学部の学生たちの人間関係力(人とつながる力)の向上に寄与すると思われるディベートを普及するために、椋山女学園大学学内ディベート大会を開催する。

2. 事業方法 (特色・独創性) 等 (300 字程度で記述)

主に、東海地区の中学生・高校生などが、例年、中学・高校それぞれ 50 人から 100 人程度、学校数としては、それぞれ 15 校から 20 校程度集う大会や講習会である。さらに、東海地区のみならず、春大会は全国の高校からの参加もあり、東海地区の文化発信の拠点として、大学の PR にもなると思われる。

尾張地区の私立中学・高校からの参加が多かったが、三河地区や公立中学・高校からの問い合わせも増え、常連校以外の参加もみられ、すそ野が広がりつつある。コロナ下においては減っていた椋山女学園大学杯への遠方からの参加が復活し、九州からの参加も予定されている。

3. 事業の成果 (600字～800字程度で記述)

6月2日(日)ディベート甲子園の論題研究会と公式練習会と審判講習会を共催した。中学・高校合わせて90名ほどが参加した。

7月20日(土)28日(日)、第32回東海地区中学・高校ディベート大会<第29回ディベート甲子園東海地区予選>を共催した。観戦講座も実施した。2日間で延べ400名ほどの選手・スタッフが参加し、あつい戦いを繰り広げた。全国大会では、東海地区の中学が優勝並びに2位に、高校が優勝並びに2位になることができた。本学の協力が多大であったと評価された。

11月10日(日)、秋季ディベート交流会を共催した。優勝チームには、椋山オリジナルグッズを贈呈するなどし、学園のPRにも努めた。

11月20日(水)に、第八回椋山女学園大学学内ディベート大会を開催した。人間関係学部の学生がディベートを楽しんだ。ディベートとは何か、ディベートで培われる力等の解説を聴いたのち、ワークシートを使って立論等を作成し、それぞれのチームが肯定側と否定側の両方の試合を経験した。ディベートは単なるコミュニケーション能力の向上だけでなく、論理的な思考力の形成にも大変効果的であること、自分事として物事を考えるきっかけになること等が確認されたイベントになった。卒業論文の作成に向けて、論理的に考えること、資料を探し、エビデンスと真摯に向き合うこと等、学生たちにとって、多くの学びがあった。

3月2日(日)には、論題研究会を、3月22日(土)23日(日)には、椋山女学園大学杯を予定している。

この経費から支出していただくことができるので、論題研究会に、論題のご専門の講師を遠方からおよびすることができ、生徒たちの学びに大きく貢献できた。東海地区の中学・高校の生徒並びに先生方に、本学に足を運んでいただく機会となり、星が丘からのアクセスの良さや、現代マネジメント学部の施設の充実ぶりをアピールすることができた。また、学内の学生たちの学びの活性化にもなった。

4. キーワード (本事業のキーワードを1つ以上8つ以内で記載)

①ディベート	②学生のスキルの向上	③学園のPR	④高大連携
⑤アクティブ・ラーニング	⑥	⑦	⑧

5. 事業の達成状況及び今後の課題 (事業の達成状況を踏まえて、課題、反省点、及び今後の取組みを具体的に記載すること。)

中学・高校生向けのディベート講座を椋山女学園大学杯として2017年3月より開催してきている。これを継続していくことは、東海地区の文化発信の拠点として本学が寄与することができ、また本学の活性化にもつながると考える。さらに、中学生・高校生だけでなく、大学生にも裾野をひろげることにより、大学の教育の質的転換にも資すると思われる。今年は、学内大会を日進キャンパスで実施したこともあり、人間関係学部生のみでの参加となってしまったが、学生のディベート力の向上には、目をみはるものがあった。来年度からは、全学部向けの「ビジネススキル入門」のクラスでディベートが始まるので、ぜひ学内大会への参加を全学部に広げていきたい。

今年度も、全面的に対面開催にでき、充実した事業を実施することができた。ディベート甲子園に向けての論題研究会からスタートし、春の椋山女学園大学杯まで、中学生・高校生・大学生・教員・社会人に向けて、様々なディベート大会を実施し、アクティブ・ラーニングとしてのディベートの魅力を宣伝し、学園のPRにもつなげていきたい。

「ビジネススキル入門」が始まるので、春の椋山女学園大学杯には、ぜひ、椋山女学園大学の学生の参加を期待したい。